

FF-PSS36E 工事説明書

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けてください。なお、この工事説明書は、工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は、△警告、△注意に区分しています。



この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



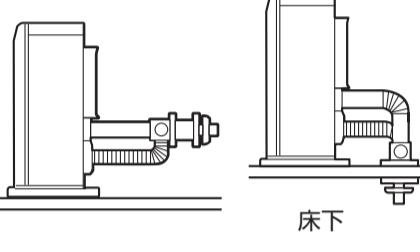
この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト(まんが)の横にある○マークは「禁止」、●マークは「指示」、△マークは「注意」を表しています。

△警告

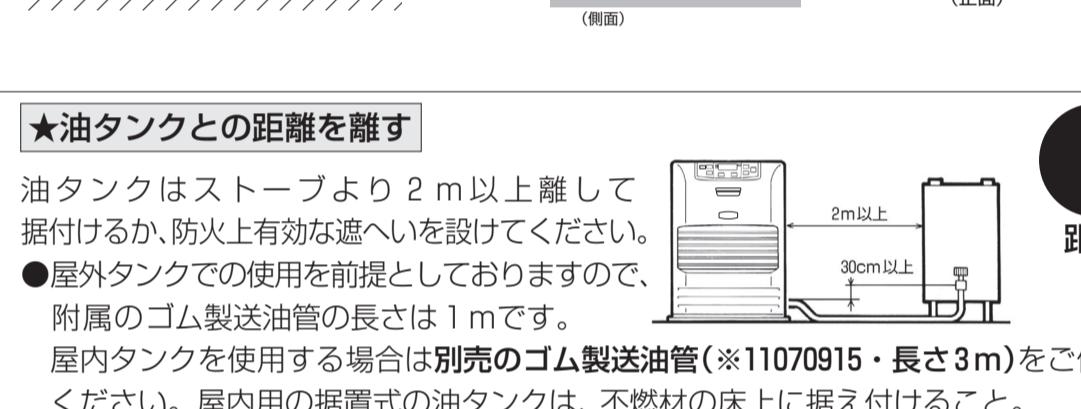
★据付けや移設は、販売店または業者がおこなってください。
お客様ご自身で据付けや移設をされ、不備があると感電や火災の原因になります。

★屋内給排気及び床下給排気禁止
屋内または床下に排気すると、排ガスが室内に漏れて危険です。必ず屋外に排気してください。



△注意

★据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準を守っておこなってください。
★給排気筒トップは閉そくしない場所に設置
積雪が多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



△注意

★次の場所には据付けない。
火災や予想しない事故の原因になります。●温室、飼育室など人のいない場所。
●付近に燃えやすいものがある場所。●水平でない場所、不安定な場所。
●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所。●不安定な物をのせた棚などの下。
●防火対策をしていないマントルピース。●可燃性ガスの発生する場所またはある場所。
●特殊な壁(内部に通気層があるものなど)を使用している場所。
●高地(標高1500m以上)では使用しないでください。酸素濃度が薄いので不完全燃焼します。標高1000~1500mの場所では再調整が必要です。
裏面の「高地仕様への変更のしかた」を参照して、調節してください。

8399002080 E-B

△注意

★ゴム製送油管の屋外使用禁止

ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

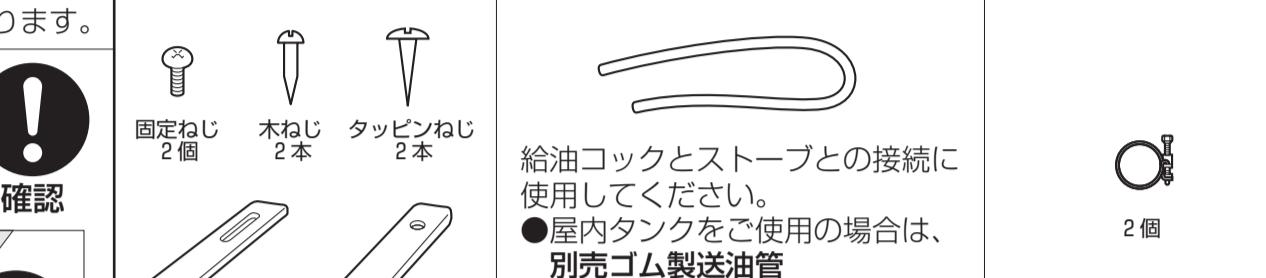
1 開こん

●包装箱から製品を傷付けないように取り出しが取除いてください。
●その他お使いになる前に製品の輸送中に生じた小ねじのゆるみやはすれなどをいかを調べてください。

附属品の確認

●開こんが終わりましたら、つぎの附属品がすべてそろっていることを確認してください。

壁固定金具 ゴム製送油管(1m) ホースバンド(小)



2 据付け

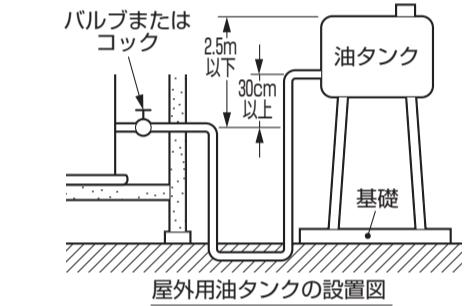
据付け場所の選定

- ストーブを据付けする床面は強い振動や衝撃がなく、ストーブの重量に充分耐え、安定していることが必要です。
- ストーブは水平になるように置いてください。ストーブが水平でないと異常燃焼や対震自動消火装置の誤動作の原因になります。
- ストーブは冷気の入ってくる方向、例えば外気の接する窓の下、壁面に設置すると効果的です。ただし、人の通る所や、可燃物の近くには置かないでください。
- ストーブに物品が落する可能性があるときは、落下の可能性のないように処置をしておいてください。
- 交流100Vの電気のコンセントの位置を考慮してください。またコンセントは雨や水がかかったり、ほこりの多い場所には設置しないでください。
- 直射日光の当たる場所や、温度の高い場所には設置しないでください。
- 理・美容院、メッキ、塗装工場、織維関係工場などスプレー・化学薬品を利用する場所及びほこりの多い場所では使用しないでください。また温室、飼育室など、動物植物の育栽培に使用しないでください。
- マントルピースなど、ストーブが囲われる場所に設置する場合の内部やその周辺は、安全のために不燃材料または準不燃材料、あるいは防熱板で仕上げをおこなってください。
- △警告、△注意の項をご確認ください。

据付け方法

油タンクの組立てと据付け

- 油タンクの据付けについては、各地の火災予防条例に従ってください。
- 油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は2m以上離してください。
- △警告、△注意の項をご確認ください。
- 油タンクの送油バルブ(油の出口)と本体の送油管との落差は30cm以上になるように置いてください。
- オイルヘッド面との落差は最大2.5m以下にしてください。油が定油面器よりあふれ出ることがあります。
- 室外設置の油タンクの場合は、右図の落差をとってください。
- 油タンクを組立ててください。
- 油タンクは熱・振動・衝撃の少ない場所に設置してください。
- 床置式の油タンクは、畳・じゅうたんなどの上に据付けないでください。



……据付け方法

送油管の取付け

- ゴム製送油管の接続部のホースバンド(小)は締め付け不足や締め付けすぎに注意してください。
- 送油管の上には重量物がのったり、折れ曲がったり、空気たまりができるような形状にならないようにご配慮ください。
- 規定の送油管以外は使用しないでください。
- ゴム製送油管は、油タンクを屋外に設置する場合は使用しないでください。
- 油タンクを屋外に設置する場合は、金属製送油管(外径約8mm)を使用してください。

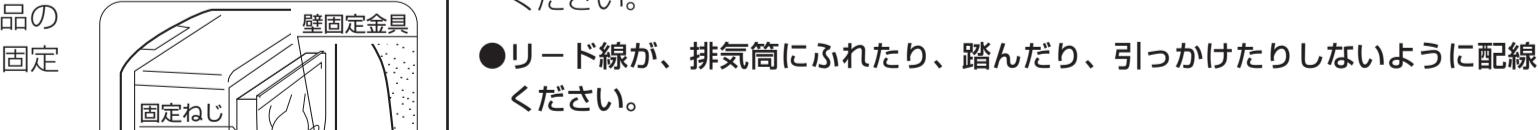
お願い
金属製送油管で配管する場合は、切断や加工時の切りくずや切り粉をきれいに取り除いてから配管してください。切りくずや切り粉が配管内に入りますと、ストーブの故障の原因になります。

- ゴム製送油管の取付けは、曲げ半径が小さかつたりねじれたりするとゴム内部に応力が加わり短時間でヒビ割れなどが発生し油漏れの原因になります。曲げ半径は最低でも100mm以上になります。またねじれのないよう設置してください。
- ゴム製送油管は紫外線に当たると劣化が早くなります。できるだけ日光の当たらない場所を選んでください。
- ゴム製送油管は時間とともに劣化しますので定期的に点検してください。2年には新しい物に交換することをおすすめします。

ストーブの固定

ストーブの据付けが終りましたら、附属品の壁固定金具で本体を壁に固定してください。壁に固定できない場所での使用はおやめください。

- 木または厚い合板の壁に固定する場合は、附属品の壁固定金具を固定し、木ねじを使用して壁に直接固定してください。



- モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込んでから、①頂と同様に壁固定金具で固定してください。



……据付け方法

3 給排気筒の取付け

- 石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合は、中空壁用プラグを壁に打ち込んでから、①頂と同様に壁固定金具で固定してください。

給排気筒の取出し場所の選定

- △警告、△注意の項をご確認ください。

- 給排気筒トップが閉そくされないよう積雪の多い地方では注意してください。排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

- 給排気筒トップは高温になります。人通りの多い所や、可燃物がある所や、可燃性ガスの発生する所には取付けないでください。

- 植木や愛がん動物は給排気筒トップの出口より遠ざけてください。

- 小さなお子さまがぶれるような所には取付けないでください。

- 石油を燃焼させるため、点火時、室温調節器の作動時、消火時に、においてができます。出入口に近い所、また、外気が室内に入りやすい所には取付けないでください。隣の家に、においていることは迷惑となりますので、避けてください。

- 壁に穴を開ける場合、壁の内部にあるすじかい・電気配線・ガス・水道の配管などにぶれない所を選んでください。

- 高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。

標準給排気筒の取付け

3 標準給排気筒の取付け

- 壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・水道の配管を充分考慮してください。

- 壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものには使用できません。

- 壁の厚さが130mm以下、320mm以上である場合は別売部品を使用してください。

- 給排気筒の端面(パイプの先端など)でケガをしないように必ず手袋をはめておこなってください。

- 緑色の絶縁シートは、はがさないでください。

- 設置場所を決めてください。

- 給排気筒の穴あけ位置を決めてください。同時に壁固定金具取付位置のねじ穴にも印をつけてください。

【裏面の取付け型紙をご使用ください】

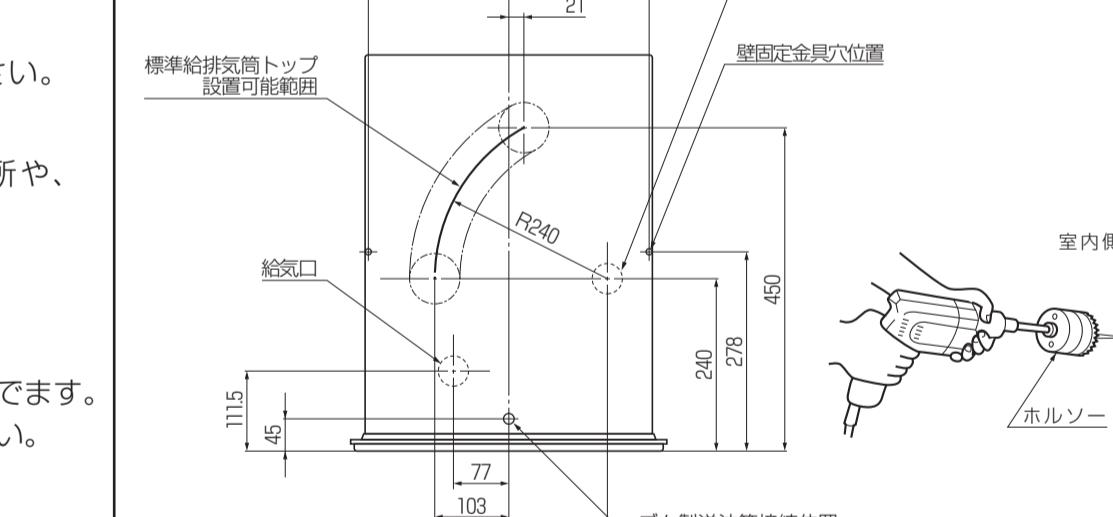
……標準給排気筒の取付け

- 壁に給排気筒の穴(Φ70~Φ80)をあけてください。

室内側から室外側に向けて約2°の傾斜で下向きにあけてください。

- 室内側から室外側に向けて約2°の傾斜で下向きにあけてください。

標準給排気筒トップ設置可能範囲



- 給排気筒セットを、トップ本体とチャンバー室にねじって分離してください。このとき、給気ジョイントはトップ本体に取付けた状態で分離してください。

給排気筒セット

- 給排気筒セットを、トップ本体とチャンバー室にねじって分離してください。このとき、給気ジョイントはトップ本体に取付けた状態で分離してください。

壁厚が230~320mmのときは、給排気筒はそのままの状態で使用してください。

壁厚が320mm以上の壁穴に取付けますと、トップ本体が外れるおそれがあります。320mm以上の厚みのある壁には取付けないでください。排ガスが室内に漏れることができます。

壁厚が320mm以上の

FF-PSS36E 工事説明書

給排気筒取付け型紙

標準給排気筒の取付け

10 給気ホースをチャンバー室の給気側に取付け、ホースバンド(大)で固定します。
●排気用L形継手を断熱カバーでしっかりと覆ってください。
●排気用L形継手が露出していないことを確認してください。
●給気ホースは、排気用L形継手に接触しないように取り付けてください。熱で変形するおそれがあります。

11 ストーブを静かに移動させ、排気用L形継手をストーブの排気口にはめ、ストーブに附属している排気筒ストッパーで固定します。また、チャンバー室側もパイプホルダーを使用して固定します。
●排気用L形継手を排気口にはめるとき、排気用L形継手のOリングに石けん水または水を塗ってからはめてください。
●給気ホースが排気用L形継手に接触していないことを確認してください。接触すると給気ホースが熱変形するおそれがあります。
●給気ホースがつぶれていないことを確認してください。

12 ①頂で軽くねじ込んで固定してトップ本体を、もう一度強くねじ込んでしっかりと固定してください。
●「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、設置できます。

13 トップ本体のフランジ部全周などにコーキング剤(シリコン系)を塗布し、雨仕舞をしてください。

延長給排気工事の限界

■延長工事部品は、必ずトヨミ純正別売品FFP-68A(1m用セット)、FFP-69A(2m用セット)を使用してください。
●給排気筒の長さは3m以下、曲がりは3箇所以下にしてください。
●標準給排気方式以外にもお部屋の条件によって排気筒と給気ホースを延長して取付けることができます。ただし延長限界は3m以下で曲がり3箇所以下です。

もし、高地設定を解除したいときは、1の操作からやり直してください。ブザー音がしてデジタル表示部に「AL Lo」表示が3秒間点滅し、元の表示に戻れば、高地設定の解除は完了です。

型紙のご使用方法

1. 型紙の床面を床に合わせて壁に貼り付ける。
2. 壁固定金具が取付けやすい位置を選びねじを取付ける位置に印をつける。
3. 穴あけ位置に給排気筒の取付け穴を開ける。

標準給排気筒トップ 設置可能範囲

標準給排気筒の取付け

注意 ●壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・ガス水道の配管を充分考慮してください。
●壁の厚さが130mm以下、32mm以上のものには使用できません。

指示 ●壁の厚さが130mm以下、32mm以上のものである場合は、別売部品を使用してください。

給排気筒の取付け、本体の固定方法は、裏面の説明書を良くお読みください。

- 設置場所を決めてください。
- 給排気筒の穴あけ位置を決めてください。同時に壁固定金具の取付け位置のねじ穴にも印をつけてください。

可燃物との距離

■可燃物との距離は下図に示す寸法以上離して設置してください。

●壁に給排気筒の穴(Φ70~Φ80)をあけてください。室内側から室外に向けて約2°の傾斜で下向きにあけてください。